

教育目標		心身ともにたくましく感性豊かに生きる子を育む					
重点目標		学力の向上・豊かな心の育成・健康で安全な生活作り・教職員の業務改善(子ども向き合う時間の確保)・学校運営協議会の充実					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
基礎・基本の徹底と授業改善	基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。	・国語・算数の学習を朝のチャレンジタイムに週3回実施する。 ・朝学習の時間に読書を取り入れる。 ・校内研修として、学年別に生活科・理科を中心に授業を公開する。講師の先生に指導助言を受け、研究を深める。 ・校内ミニ研修を実施し、授業力の向上に役立てる。 ・5,6年の算数で新学習システムを実施する。 ・算数では、授業の初めに学年の実態に応じて音読計算を取り入れ、計算力の向上に役立てる。 ・中、高学年を中心に、1週間程度夏休みに学習会(サマースクール)を行う。 ・PTAの学力委員会と連携し、放課後、児童の学びの場や土曜学習を推進する。 ・学力向上プランを作成する。	・年度末の読解力テストの正答率が80%以上になるようにする。 ・年間を通して、事前研究会、事後研究会をそれぞれ6回実施する。 ・授業研究会とは別に、年間3回校内ミニ研修会を実施する。 ・算数の少人数指導を実施し、算数の学力を向上させる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「先生は、教える方いろいろな工夫している」と回答した割合が90%以上になる。 ・水曜広場を月1回以上開催する。土曜学習を月1回以上開催する。	A	・読解力テスト、サマースクールはコロナの関係で実施できなかった。 ・チャレンジタイムは朝の会と時間帯が同じなので専科教室への移動等もあり、確保しにくかった。 ・授業力の向上を目的とした自主研修会については、若手教員の増加に伴い必要であるにもかかわらずコロナ対策との兼ね合いで時間の確保が難しかった。学校全体の研究推進計画の中に位置づけて確実に進める必要がある。 ・各研修会について職員66%が授業に生かしていること評価した。 ・算数の少人数指導を実施し、個々に応じたきめ細やかな指導ができた結果、算数の学力を向上させた。 ・コロナ対策として学力保障の教員が配置され、基礎学力が向上した。 ・児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が91%で、目標を達成できた。「先生は、教える方いろいろな工夫している」と回答した割合も、97%で、目標を達成している。 ・保護者も先生はわかりやすい授業に務めていると99%が評価している。 ・算数の音読計算の実施に学年によりばらつきがあった。 ・学習習慣や生活習慣が確立されていない児童が一部見受けられ、学力差となって表れている。	・チャレンジタイムは、内容を限定せずに、弾力的に運用できる時間とすることが望ましい。引き続き、週3回朝のチャレンジタイムを行う。短い時間で確実に行うことができるような教材を工夫する。 ・業務改善に取り組んで子ども向き合う時間及び教材研究の時間を確保するとともに、授業力の向上を目指した自主研修会を行っていく。 ・市内指定研究発表に向けて、コロナ対策を講じながら学校全体での協働体制を工夫し、さらに意欲を高める。 ・学力向上プランを具体化し、子どもの実態に沿って学力向上を図る。 ・算数の少人数指導では、引き続き具体物を使って、理解を深め、問題の練習量を増やして、学習理解の定着や抽象的な思考力の向上を図る。また、3・4年の中学年の算数の基礎的な内容を着実に理解させることで、高学年につなげていく。 ・水曜広場や土曜学習の人材と時間を確保し、基礎学力の定着のため内容の充実を図る。 ・家庭の状況に合わせて家庭学習の定着に向けて働きかけをしていく。 ・地域や保護者の教育資源を活用し、学習の意義や面白さを伝える。	・少人数指導を継続し、水曜広場や土曜学習が定着すれば学力差がなくなるのではないかと。 ・地域や保護者の教育資源をぜひ活用していただきたい。 ・「授業がわかりやすい」と応えた児童が多く目標は達成できているが、さらにそうでない児童のフォローもしていただきたい。 ・保護者は授業参観以外に授業を見る機会がないので、自分の子どもが相対的にどのくらい理解しているのかを数字で見ることができれば、1年間の学力の変化がよりわかりやすい。 ・「研修会の内容を授業に生かしている」と答えた職員が66%とのことであるが、研修内容はどのようなものであるのか知りたい。 ・授業開始時に「めあて」を提示することで、目標を持って学習に取り組んでいるように感じる。 ・いつコロナの影響があってもよいように、オンライン化を進めてほしい。
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。 読書活動を充実させ、読書力の向上を図る。	・夏休みや冬休み等も図書室を開放したり、各学年・クラスの常備図書を増やしたりする等、図書環境を充実させる。 ・理科で学ぶ問題解決的な学習を他教科にも広げていく。(自分の考えを持つための問題解決学習のあり方) ・各教科で言語力を高めるために、記述・説明する活動を充実させる。 ・ノートや学習カードの活用。 ・学力向上プランの作成。 教育のユニバーサルデザイン化を図る。	・読書カードに読書した書名を記入させ、読書を推進する。 ・1ヶ月の読書目標数を11冊を達成する。 ・実験前に予想・仮説を立てさせ、観察・実験の結果を整理し、考察する活動を大切に。(ノートや学習カードの活用) ・各教科で言語活動を学習活動に取り入れる。	B	・貸出しはコロナにより例年通り行うことはできなかったが、できる範囲で図書利用を行い、成果として、1ヶ月の読書目標数11冊は達成できた。 ・図書室で本を読むことができず、読書数は減ったが、家で本を読む習慣づけて家族(うち)の取り組みをした。図書室のイベントを楽しむ児童が多かった。 ・教科学習の中で、多様な方法(コロナ予防しながらの意見交流、個人思考の際の発問等)で表現させることを工夫したり、子どもたちの表現に対する評価を意図することにより、子どもたちの気づきの質を高めて表現力が育つよう取り組んだ。 ・理科では自分の考えを持つために、問題解決学習を重視して取り組んだ結果、進んで問題解決の方法を考えたり、意図的に学んだりする姿が見られるようになってきた。 ・観察・記録・整理・考察・説明・意思決定等の言語活動を各教科に取り入れていくことができた。 ・授業の見直しを示したり、視覚による教材提示をおこなうなど、授業においてユニバーサルデザイン化を進めた。 ・全国学力・学習状況調査より、理由をつけて相手に伝えるように書いたり問われている内容に即して解答することが難しい児童が見受けられた。	・引き続き図書室の利用を促すようなイベントや図書の紹介をしていく。 ・朝学習に読書タイムを取り入れたら、今年度はコロナによりできなかったボランティアによる読み聞かせを行う。 ・学習指導要領でめざす「主体的、対話的で深い学び」に向けて、各教科の学習内容で、学びの履歴や児童の実態を的確に把握するとともに、それに即した具体的な指導計画(教材・教具、発問、学習形態等)をしっかりと立案して授業に臨む。特に1時間の授業の中で、思考したり、表現したり、互いの考えを共有したりすることをおして、学びを深める時間を確保していく。 ・授業の初めに目標を明確化し、それに対応した振り返りを行う。 ・学習マップを作成し、子どもも教師も見直しをもって思考できるようにする。 ・今年度学力学習状況調査から明らかになった課題をもとに、授業の中で根拠をもとに相手に伝えるように表現する力の向上に向けて作成した学力向上プランを実施していく。	・読書することが、間接的に思考力や判断力の育成につながると思う。 ・学習マップを子どもたちの学習への意欲や意欲の高まりにつなぐことが必要だと思う。 ・図書ボランティアを活用し、本に親しみながら、ことばの理解や読書力が向上できるよう、引き続き読み聞かせを行ってほしい。 ・理科の実験などの体験学習をふやすことで、引き続き、学ぶ楽しさや意欲の向上につなげてほしい。 ・低学年の間は読書冊数などの目標を示すと興味を持って取り組めるが、読書の興味や薄れがちな高学年に向けて効果的な手法が必要ではないか。 ・今後も子供の実態や時代にあった研究を継続して進めていただきたい。
	授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・対話型の授業の実践(ペアグループ・全体)を行う。 ・各教科で電子黒板や実物投影機等を活用して学習意欲を向上させ、学習内容の習熟度を高める。 ・各種情報機器を授業に取り入れる。	・低学年30分、中学年60分、高学年90分の家庭学習の目標時間を達成する。 ・ICTを月600回以上活用する。 ・予習復習の習慣をつける。	A	・成果として、ICTを月平均1000回以上活用できた。 ・保護者と連携し、家庭学習で繰り返し反復させたことで、教科の基礎的な内容の理解が定着し、できる・わかるが次なる意欲につながっている。 ・家庭での学習時間は、子どもにより個人差が大きく、宿題の出し方や評価の仕方を工夫改善する必要がある。 ・自主学習をする児童は増加傾向である。 ・今年度は、コロナ対策で児童同士が対話しながらの学習に制限があり、思考の広がりが少ないように感じた。今後、工夫が必要である。 ・学力学習状況調査の結果、学習の大切さはわかっているが、教科学習を「好きだ」と肯定的に回答した児童数が少なかった。学習に対する興味・関心を高める必要がある。	・授業の中での効果的なICTの活用法(タブレットを含む)を、職員間で研修することで、活用へのさらなる意欲を高める。さらに、多くの職員が活用できるようにするための研修を行う。 ・自主学習ノートを取り入れ、学校や家庭での自主的な学習時間の確保を図る。 ・児童の家庭学習や読書に対し、その都度評価し意欲の持続化につなげる。 ・家庭学習プリント配信システムの活用を図る。 ・子どもたちの興味関心を高める教材や教具を工夫するとともに、体験活動を重視し、地域や専門家など学校外の協力を得ながら学ぶ楽しさや意欲を高める。	・子どもが関心をもった授業内容は家庭でも自ら読書を持って取り組めるよう、タブレットを使っての授業は興味があるようだ。タブレットを使うことで学習の楽しさや意欲が上がるのでうまく活用してほしい。 ・電子黒板やICTの活用によりわかりやすい授業が展開されるように思う。 ・子どもたち全員の興味を引き出したり、学力を伸ばしたりできるように、どの先生もタブレットを使えるようにしてほしい。 ・学習習慣が確立されていない児童へのフォローが必要だと思う。具体的な改善策が出されているので、期待している。
豊かな心・健やかな体	いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 不登校児童数を減少させる。 命を大切に児童を育てる。	・いじめアンケートを実施し、実態に応じた対応をしていく。 ・欠席がちな児童には、家庭訪問を行うとともに、保護者や登校児童の負担にならないような登校を支援していく。 ・毎月生徒指導研修会(いじめ等)を持つ。 ・全ての教育で命の教育を推進する。 ・毎月の職員会で各クラスの子どものための報告を行い、共通理解を図る。	・いじめアンケートの結果や教職員がいじめと認識した事案について、早期発見、早期解決する。 ・毎月1回スクールカウンセラーと全職員で生徒指導研修会を持つ。 ・不登校児童数が0人になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が65%以上になる。	B	・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が90%以上になり、目標を達成できた。 ・欠席が90日を超える児童は8人だった。過程や関係機関との連携を密にし、ケース会議によりアプローチを工夫するなどの対策が実施された。 ・生徒指導部会を毎月行うとともに、問題行動報告会を、月1回、職員会議前に行い、共通理解した。 ・冒険教育や遊具遊びを体育の準備運動や体育の力キョウムに組み入れてはいるものの、コロナ感染症対策もあって十分に実施できなかった。また、市教委と連携し、冒険教育の遊具や校庭の遊具の老朽化による危険を防ぐ対策も必要である。 ・コロナ感染症対策を工夫しながら、児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、PK大会を行ったりして、スポーツの楽しさや体力の向上につながった。 ・業間休みや昼休みなど、前後の手洗いなどの感染症対策を行い、各クラスに配布されたボールを使った遊具を使った遊具が増えた。 ・体育のがんばりカードを活用し、休み時間にも運動する児童がみられた。 ・体育の時間に持久走を取り入れることが増えた。 ・運動場開放を第1、3、5土曜日に実施した。	・有岡小学校いじめ防止等のための基本方針に基づいて、組織として取り組んでいく。 ・欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者対応を密にし、職員間で情報を共有化した上で、複数の職員で対応するなど、組織的な協力体制をさらに強化する。関係機関と連携して取り組む。 ・不登校児童へのリモート授業などの対策を講ずる。 ・保護者がより学校への相談がしやすくなるような体制づくりに取り組む。	・保護者が小さなことでも、相談できる体制を整えることで、欠席している児童も減るのではないか。特に、「自分を大切にすること」の取組について、10%の児童がまだ肯定的ではないので、引き続き重点的に取り組んでほしい。 ・市教委が行っているいじめに関する講演会などについて、各家庭に周知すること、留められているご家庭が参加できるのではないか。 ・学校やクラスが安心できる場所であること、信頼できる大人がいること、居場所や場所ではなくひととのつながりがあること、また、引き続きいじめや不登校対策に取り組んでいただきたい。 ・欠席がちな児童へのフォローは大切だと思う。連携を強化し、環境づくりに努力していただきたい。 ・全体的にリモートを進めば、学校に登校できない児童も授業を受けられると思う。そうすれば、台風などで学校が休校の時にも対応できるので、ぜひそうしてほしい。
	冬場の縄跳び運動や外遊びを奨励したりする。 冒険教育やボール投げ、サーキットトレーニング、持久走を可能な範囲で体育の時間に取り入れる。 スポーツの楽しさを体感させる。 放課後運動場を開放し、体力向上をめざす。 スポーツ21等地域の体育的行事に参加するよう呼びかける。 体力アッププランを作成する。 各クラスにドッジボールやスポンジボールを配布する。	・冒険教育を月200回目標を達成する。 ・年間を通して児童主催の委員会を中心に全校ドッジボール大会等を入れる。 ・体育の時間にサーキットトレーニングを取り入れる。 ・体力アッププランの実施 ・コロナ感染症対策を工夫しながら、児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、PK大会を行ったりして、スポーツの楽しさや体力の向上につながった。 ・業間休みや昼休みなど、前後の手洗いなどの感染症対策を行い、各クラスに配布されたボールを使った遊具を使った遊具が増えた。 ・体育のがんばりカードを活用し、休み時間にも運動する児童がみられた。 ・体育の時間に持久走を取り入れることが増えた。 ・運動場開放を第1、3、5土曜日に実施した。	B	・冒険教育や遊具遊びを体育の準備運動や体育の力キョウムに組み入れてはいるものの、コロナ感染症対策もあって十分に実施できなかった。また、市教委と連携し、冒険教育の遊具や校庭の遊具の老朽化による危険を防ぐ対策も必要である。 ・コロナ感染症対策を工夫しながら、児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、PK大会を行ったりして、スポーツの楽しさや体力の向上につながった。 ・業間休みや昼休みなど、前後の手洗いなどの感染症対策を行い、各クラスに配布されたボールを使った遊具を使った遊具が増えた。 ・体育のがんばりカードを活用し、休み時間にも運動する児童がみられた。 ・体育の時間に持久走を取り入れることが増えた。 ・運動場開放を第1、3、5土曜日に実施した。	・冒険教育やサーキットトレーニング、持久走等のさらなるプログラム開発することで、児童にとって楽しく、魅力あるものに。目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・遊具の補修改善を進める。 ・児童主催の委員会活動で、楽しんで体を動かす活動を組み込んでいく。 ・体力向上プランを考えるなど、学校全体で取り組む。	・タブレットを活用して、体の動きや改善点をわかりやすく説明することができるので、うまく活用してほしい。 ・ドッジボール、持久走ともに楽しんでした。コロナ収束後に保護者を交えてのドッジボール大会等の企画があれば。 ・業間に先生が積極的にドッジボールをする機会を設けたり、縄跳びなどの外遊びを促していただくことで、校庭で過ごす児童が多く見られている。	
開かれ信頼される学校	学校便り、ホームページ等学校情報発信する。 授業公開や参観日、オープンスクール等を行う。	・学校だよりを月1回以上発行し、学校情報を保護者に発信する。 ・学校ホームページを月1回以上更新し、学校情報を発信する。 ・学校評価を学校改善に活かす。 ・有岡小学校区まちづくり協議会、すこやかネットに参加する。 ・あいさつ、言葉づかい、服装、時間を守ることなどのマナーや生活のきまりを、地域や保護者とともに取り組む。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに答えている」と回答した割合が90%以上となる。 ・PTAと連携し、土曜学習を月1回以上開催する。	A	・学校便りを月1回以上発行した。 ・ホームページを206回更新した。 ・コロナにより授業参観が1回しか行えず、保護者に学校の様子を知っていただく機会が減った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が99%になり、目標を上回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに答えている」と回答した割合が98%になり、目標を上回った。 ・コロナによりPTAとの連携が一旦中断したが、土曜学習を感染状況をみながら5回実施した。また、漢字検定を実施し、昨年度とほぼ同数の児童が受験した。 ・登下校の安全指導や生活規律、あいさつなどについて、地域や保護者等協力を得ることができた。 ・全国学力・学習状況調査より、地域社会とのつながりが弱い傾向が見られた。	・学校便りに月の行事をよくわし掲載する。 ・自校のホームページを定期的に更新するために、児童の活動の様子をその都度記録し、保存しておく。 ・教職員や地域の人等が共通認識のもとに一貫した指導を行うことができるように運営協議会等で協議する。 ・運営協議会による教育サポートプログラムを教育活動や環境整備に取り入れ、地域人材や教育資源の積極的な活用を行う。 ・指導計画をホームページに掲載するなど、学校の教育活動を広く地域に発信し、教育活動への理解と参画を得られるようにする。 ・校区の歴史や産業に関心をもち、地域に対する愛着を育む。	・ホームページの更新回数が増えて、子どもたちの様子がよく見えた。 ・学年ごとのホームページも定期的に更新してもらえると嬉しい。 ・ホームページを携帯で見ると重たい、表示されるまでに時間がかかるので、もっとスムーズに動くホームページになると嬉しい。 ・有岡小学校は、特に歴史や産業に関心を持っていただけるので、授業だけでなく遊びの中で体力をつけることが必要と考える。
	校種間の連携を深め情報交換等を行う。	・幼・小の給食交流・行事交流・遊び交流 ・幼・小連携委員会・PTA学力向上委員会との連携 ・小中連携委員会・中学校夏季合同研修 ・各校種間の出前授業の実施 ・校内研修会への幼稚園教諭の参加	・幼・小連絡委員会を月1回開催する。 ・中学校と話し合いを持つ。 ・ありあけ幼稚園には、学期に1回以上出前授業を行う。 ・中学校の出前授業を年1回行う。 ・幼・小各校園の研究会に参加する。 ・幼・小連携から接続へ	C	・今年度はコロナ感染症対策のため十分には行えなかった。(幼稚園との給食交流や中学校の出前授業も含め行事交流は全て中止となった。) ・幼稚園の子どもが本校の理科教員の授業を受けた。校内外の行事など、幼・小のめざまな接続に対する支援が行えた。 ・中学校との連絡会は実施することができた。	・コロナ感染症対策を行いつつ、幼・小の話し合いの時間を確保するよう方法を考え、お互いの研究の中にも位置づけていく。 ・中学校は、北と南に分かれており連携が難しい面があるが、児童が小学校生活から中学校生活へスムーズに移行できるようにそれぞれ連絡を密にしている。 ・中学校との連絡会は実施することができた。	・幼・小連携ができれば、子どもや保護者も安心できるので継続してほしい。 ・保護者の間で今年度もコロナのために連携がむずかかったが、必要なことなので方法を考える必要がある。 ・就学前や進学に向けておきたい力の共通理解や、子どもたちが新しい環境に慣れることを目的とした双方向の連携ができるようになると安心である。

学校関係者評価総括  
今年度は、新型コロナウイルスの感染の影響が大きく、感染予防に配慮しながらの教育活動(消毒や学校行事の変更、授業形態の工夫など)はたいへんな苦労があったと感じる。その中で、子どもや保護者のアンケート評価について昨年度とほぼ同数の肯定的評価が得られたことについて、学校の取り組みについて一定の成果があったと感じる。  
一方で、コロナによる制限があるからこそ、より相談体制・情報発信等に工夫し、安心して子どもたちが学校に通える環境を、学校・家庭・地域が連携しながら、整える必要がある。新型コロナウイルスの感染対策による制限が子どもたちにもたらしているストレスに対するケアをしつつ、社会のルールを守ることについて子どもたちに働きかけていきたい。  
また、学校での授業改善や読書活動、体力作りなどの効果的な取り組みについては継続しつつ、地域の教育資源を積極的に活用して、子どもたちの学びに対する意欲の向上につなげていただきたい。

次年度に向けた重点的な改善点  
・コロナ感染症対策により、保護者や地域との交流が少なくなることは次年度も予測される。だからこそ、感染状況を見極めた上で、可能な限り方法を工夫して交流の機会や情報発信の方法を工夫する。(学校だより、ホームページ、行事の持ち方、保護者や地域の参加の仕方等)  
・基礎学力をどの児童にもつけられるよう、授業(少人数授業・発問や即時評価等)や家庭学習(宿題の出し方や自主学習の評価の返し方等)を工夫する。  
・より学習に対する興味関心や意欲を高められるよう、地域人材や地域資源を活用し体験的な学習機会を増やす。  
・子どもたちが安心して学校に通えるように、相談体制や異校種連携を進める。